

アメリカの文化
に触れながら、
たくさんのことを
経験できたね!



アイボくん
(姉妹都市交流マスコット)

村の学生訪問団が 姉妹都市・米国 アイダホフオールズ市を 訪問しました!



市長訪問

東海村と米国アイダホ州アイダホフオールズ市は、昭和56年に国際親善姉妹都市の盟約を締結しました。以来、現在までに延べ約1000人が相互に親善訪問や学生のホームステイを実施するなど、36年にわたり交流を続けてきました。今回は、本村から第17回目となる学生訪問団がアイダホフオールズ市を訪問し、現地でたくさんの方々と交流し、親交を深めました。

問い合わせ▼

まちづくり推進課原子力サイエンス・国際化担当(☎282-1711 内線1342)、東海村国際交流協会(姉妹都市交流会館内 ☎282-0535)

「アイダホでの貴重な体験」

三浦 理彩(学生訪問団副リーダー)

初めての海外、初めてのホームステイ。最初はずっと不安で緊張していました。でも、4日目のファミリーデーの日、ホストファミリーと“Lava Hot Springs”というプールと温泉があるところに行きました。その日からお互いに少しずつ緊張がほぐれてきた気がします。私を優しく気遣ってくれたり、困っていたらサポートしてくれたり、話し掛けてくれたり、助けてくれたりしてとても安心しました。ラグーン遊園地で乗ったジェットコースター、動物園、ホストファミリーと行った結婚式、ビリヤード、ドライブなど、アイダホの学生たちやホストファミリーと一緒にさまざまな体験をすることができてうれしかったです。私は副リーダーということで送別会でスピーチをしました。とても緊張して、なかなか前を見ることができませんでしたが、今後につながるとても良い経験になりました。13日間の中で学ぶことはとても



▶左から4番目が三浦さん

多く、楽しいことも盛りだくさんで、私に新しい目標を与えてくれました。いつかまたアイダホに行きたいです。

「My treasure time in Idaho!!」

川又 百恵(学生訪問団リーダー)

私は初めてのホームステイで最初はとても緊張していましたが、ホストファミリーが温かく優しい笑顔で接してくれたので、安心できました。ホストファミリーのレイチェルが、スピーチで緊張する私を優しく見守ってくれたこと、一緒に買い物に行ったときにクマのスーベニアコインを買ってくれたこと。ファミリーデーで行ったJackson Hole。イエローストーンで見た間欠泉とパイソン。水は透き通っていて湯気は迫力があり、きれいでした。それにビッグスプリングスでの川遊び。ムースを近くで見ることができました。ずっとこのまま時間が止まればいいのに…と思うほど楽しむことができました。レストランで食べた大きなハンバーガー。今まで食べたハンバーガーの中で一番おいしかったです。まだまだ書ききれないほどですが、大切に、特別で、宝物のような思い出をたくさん作ることができました。そして、以前友達になった子と再会したり、新しい友達ができたり、アメリカについて学んだりすることができました。今回の経験を、一生忘れずに今後生活していきたいと思っています。



▶一番左が川又さん



【行程】

7月27日	出発…シアトル、ソルトレイクシティを 経由し、現地時間夕方アイダホフォール ズ市へ到着
28日	市長を表敬訪問 警察署・消防署見学、歓迎会
29・30日	ファミリーデー (各自ホストファミリーと過ごす)
31日	イエローストーン国立公園見学
8月1日	アイダホミュージアム・アートミュージア ム・アーティトリウム(科学技術とアート を合体させた全年齢の子どもが対象のユニ ークな施設)見学
2日	ラグーン遊園地
3日	アイダホフォールズ動物園にてオリエン テーリング、ロデオ鑑賞
4日	川遊び(水鉄砲合戦)
5日	ファミリーデー
6日	送別会で、イースターやハロウィーン、 クリスマスなどの伝統行事を体験
7日	帰国…ソルトレイクシティ、シアトルを 経由し、日本時間午後3時30分ごろ成田 空港へ到着



空港での大歓迎！



川遊び



ムースの親子を発見！



警察署見学



ハロウィーンの仮装体験



記念品交換



ダッチオープン夕食

アイダホフォールズ市



How was Idaho?
(アイダホはどうだった?)

さくらちゃん
(姉妹都市交流マスコット)

【訪問団員】

高等学校	2 年	女子	6 人
	1 年	男子	1 人
		女子	3 人
	計		10人
中学校	3 年	男子	1 人
		女子	4 人
	計		5 人
引 率 者			3 人
合 計			18人

「Thank you Idaho!!」

礪部 隼介(学生訪問団副リーダー)

アイダホへの出発の日。成田空港へ向かうバスの中で私はある事実を知った。到着までにかかる時間の長さだ。今まで経験したことがないような移動時間。これが海外旅行なのかと。空港に着くと、たくさんのホストファミリーがウェルカムボードを持って、私たちを待っていてくれた。うれしかった。しかし、このときの私は忘れていた。言葉の壁というものを。ホストファミリーのPadron一家と一緒に最初の集合場所に行くときに、たくさんの質問をしてくれたが…分からない。こんなことになるなんて全く想像していなかった。その後、私の異変に気付いたホストファミリーは、簡単な英語を使って話し掛けてくれた。そこからはもう何も怖くなかった。自分の話す英語が通じる！安心した。アイダホでの行事はどれもみんな楽しくて、これが1番というイベントは決められない。みんなで集まって食事をしたこと、外に出てみんなとたわむれたこと、遊園地に行って遊んだこと、買い物をしたこと、全部素晴らしい思い出だ。みんないつでも優しく声を掛けてくれて、とてもうれしかった。最後の最後まで、ホストファミリーは私に優しく接してくれた。帰りの荷造りをしているときも手伝ってくれたり、たくさんのプレゼントを用意してくれたりした。泣きそうだった。そして、お別れの日。“お別れしたくない”そんな感情を抱かせてくれるほどだった。何をして返せばよいのか分からなかった。でも、一緒に過ごした時間こそが最高のお返しのような気がした。そして、感謝。ありがとうの言葉はどこでも変わらない。そう思えた。だから、もう一度言いたい。「ありがとう」



▶左から2番目が礪部さん